

人間社会環境研究科 地域創造学専攻

【授与する学位】修士（地域創造学）

大学（大学院）の目的	学類（研究科）の教育研究上の目的
<p>金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p>	<p>人間社会環境研究科は、人間社会環境における諸問題に関して高度な教育研究を行い、この領域における国際水準の教育研究拠点として、現代的課題に対応できる独創性豊かな知の人材を養成することを目的とする。</p> <p>博士前期課程は、博士後期課程の基礎となる専門的な教育研究を行い、独創性豊かな大学教員及び研究者を目指す者を育成するとともに、専門的実務能力を備えた高度専門職業人並びに深い知識と学際的な興味を持って企業・自治体、地域社会等へ貢献する人材を養成することを目的とする。</p> <p>地域創造学専攻は、地域創造学領域において博士後期課程の基礎となる専門的な教育研究を行い、独創性豊かな大学教員及び研究者を目指す者を育成するとともに、専門的実務能力を備えた高度専門職業人、及び企業、自治体、地域社会等へ貢献する人材を養成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
<p>【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】</p> <p>地域創造学専攻は、社会に暮らす人、社会、環境、芸術、教育に関わる内容を融合した地域創造学分野に精通すると共に、地域の諸課題を客観的・学術的に捉え直し、専門的・学際的な知見から問題解決に役立つ高度な「地域創造力」を備えた高度専門職業人及び研究者を育成することが社会から期待されている。</p> <p>こうした人材を育成するために、地域創造学専攻では、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、かつ修士研究指導を受け、論文若しくは特定の課題の審査、又は博士論文研究基礎力審査及び試験に合格した者のうち、地域コミュニティ、社会福祉政策や社会・人権保障などの地域創造学分野に関連する教育研究を重点的に修めた者に修士（地域創造学）の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成に関する基本的考え方】</p> <p>地域創造学専攻では、学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる事項を修得できるよう、地域社会に生起する諸問題の把握とその解決を目指す「地域創造力」を備えた高度専門職業人及び研究者に必要な、知識や技術の修得や、基本的倫理観、国・地方自治体や企業・NPO等が求める政策・企画立案能力の向上を目指した以下のような授業科目を体系的に編成する。また、授業科目の履修や実習を通して能力を身につけた成果を、修士論文もしくは特定の課題としてまとめる。修士論文・特定の課題では、専門的・学際的な観点から地域課題における実践的問題の解決を志向する研究を行う。さらにデジタル地域創造コースでは、データプライバシー・エキスパート養成プログラムを提供する。</p>	<p>【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】</p> <p>地域創造学専攻は、地域の特性に応じて個別的な解決を導く専門的・学際的な「地域創造力」を備えた高度専門職業人及び研究者の養成を目標としている。地域創造学コースでは地域の諸課題の解決に取り組む人材の養成を、教育支援開発学コースでは学校現場でチームを組んで教育を支援する人材を養成する。デジタル地域創造コースでは地域や学校現場の諸課題解決に取り組む人材を養成する。</p>
<p>【学生が身に付けるべき資質・能力】</p> <p>(1) 地域コミュニティ、社会福祉政策や社会・人権保障などの地域創造学分野を中心とした地域に暮らす人、社会、環境、及びそれらを取り囲む諸問題を理解する高度な専門的知識を修得している</p> <p>(2) 地域コミュニティ、社会福祉政策や社会・人権保障などの地域創造学分野を中心とした地域課題を発見し解説するために、柔軟な思考力を持って国内外の地域の持続的発展に貢献する意欲を持っている</p> <p>(3) 人と社会と環境に高い関心を持ち、国際的な視野を持って国内外の地域の持続的発展に貢献する意欲を持っている</p> <p>(4) 専門的研究への探究心と学際的見識の獲得に高い関心と意欲を持っている</p> <p>(5) 他者を尊重し社会の一員として主体的に地域に貢献できる</p> <p>(6) 地域課題を発見し解決するために必要な科学調査や分析手法を修得している</p> <p>(7) 情報収集、議論、成果報告に係る高度なコミュニケーション能力を修得している</p>	<p>【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】</p> <p>1.教育内容</p> <p>大学院GS基盤科目では、研究倫理や研究法、関連領域に関する基本的な知識や技術を育む。</p> <p>研究科共通科目では、論文指導及び、防災・復興人材特別プログラムや連携協力実習について学修する。</p> <p>専攻共通科目、専門応用科目では、論文指導、地域における実践的な課題解決を学ぶ課題型インターンシップ、高度な地域資源情報収集や地域におけるコミュニケーション力の修得をめざす地域フィールドワークなどを通して、修士論文執筆に必要な研究倫理や研究法についての知識と技術の修得や地域社会に生起する諸問題の把握とその解決を目指す複合的な「地域創造力」を育む。</p> <p>専門基礎科目では、経済分析や自然科学的アプローチ等から農業環境・防災地理・健康体力科学などといった他分野との密接に関連する学際的な内容、あるいは教育に関する諸問題の解決に向け地域の教育資源を有効に活用した効果的な教育プログラムを開発するなどの教育支援開発分野に関連する地域創造学類もしくは学校教育学類の学士教育課程の内容を踏まえたより専門的や知識や技能、学際的・複眼的な知識や技術を育む。</p> <p>データプライバシー・エキスパート養成プログラムでは、データを調査・分析する技術を学ぶプログラムを提供し、今日の社会ニーズに対応できる高度人材を育成する。</p> <p>2.教育方法</p> <p>ディプロマポリシーに掲げる事項を修得できるよう、大学院GS基盤科目、研究科共通科目、専攻共通科目、専門基礎科目、専門応用科目、データプライバシー・エキスパート養成プログラム（デジタル地域創造コースのみ）から所定の単位数を修得する。各授業科目は、その目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法、形態で行う。さらに、研究カンファレンスや英語検定試験、研究指導等、学生が主体的に学修に取り組むことができるように工夫している。</p> <p>なお、社会人を対象とした長期在学及び短期在学型（1年）のプログラムも設けている。</p>	<p>【求める人材】</p> <p>学士課程教育で培った基礎的な地域創造力を伸ばし、地域社会の多様な諸問題に対応できる人材を習得する意欲を持った学生の方を受け入れる。また、職場や地域社会で感じている各種の地域的課題を客観的・学術的に捉え直し、専門的・学際的な知見から問題解決に役立つ知識と方法の習得を目指す社会人、日本における地域課題とその解決について学び、母国の地域創造のリーダーとして働く意欲を持った外国人留學生の方を受け入れる。さらに、社会の諸課題に向き合い、今日の研究技術を学ぶことで課題解決に挑戦する意欲をもち、そのための基礎的学力を備える学生を受け入れる。</p> <p>入学に際し必要な基礎学力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究対象とする検討課題について、地域社会への高い関心と深い探究心を持って、明確に把握している。 ・研究対象とする検討課題について、専門的に学修する研究分野・領域の基礎的知識を身につけている。 ・地域の現状を正確に把握するために必要とされる調査分析に関する基礎的な能力を身に付けている。 ・多角的かつ批判的に物事を捉える能力を養うため、関連する多分野の文献・図書を購読し、幅広い教養を身に付けている。 ・地域に暮らす人々を理解し、繋がり、合意形成を築くための、基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。
<p>【学修成果の評価】</p> <p>(1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。</p> <p>(2) 論文若しくは特定の課題の審査、博士論文研究基礎力審査においては、その審査基準及び試験の方法を明示し、それらに基づいて学修成果を評価する。</p>	<p>【選抜の基本方針】</p> <p>一般選抜・外国人特別選抜 入学後専攻しようとする科目1科目に関する基礎問題と専門問題から構成される記述試験と、提出された研究計画書及び受験した専門科目に関する口述試験を行う。</p> <p>社会人特別選抜 入学後専攻しようとする科目1科目に関する基礎問題と専門問題から構成される記述試験と提出された研究計画書及び受験した専門科目に関する口述試験を行う。</p> <p>短期（1年）在学型選抜 提出された研究計画書に関する口述試験を行う。</p> <p>学内推薦特別選抜 提出された研究計画書に関する口述試験を行う。</p> <p>海外在住者を対象とした遠隔特別選抜 提出された研究計画書に関する口述試験を行う。</p>	<p>【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</p> <p>デジタル地域創造学コースに入学する学生は、統計調査士資格を取得済みであること、又は社会調査士の資格認定科目を履修し、社会調査士（キャンディデイト）を取得済みであることを前提とする。</p>